

決算語録

ドラッグストア 魅力づくり直す



「店員のはり付け方を変えたり、スーパーの商品を導入したりして、ドラッグストアとしての魅力をつくり直す」と話すのは、バローホールディングスの小池

孝幸社長。業績好調の中、ドラッグストアは営業利益が前年同期比25・1%減と落ち込んだ。

ドラッグストアは9月末時点で555店舗を展開。商圈特性に応じた店舗フォーマットを模索しており、「スーパー併設型の店舗の商品構成はどうすればいいのか。都市型、郊外型、過疎地はどうすればいいのか。一律ではない形で取りこぼしをなくしていく」と説明。スーパーのバローのプライベートブランド(PB)の

販売も検討し、「バローのPBで収益が上がるのか実験を始めている」と語る。